

## 第2学年1組 道徳学習指導案

日 時：平成29年12月6日（水）5校時

場 所：2年生教室

指導者：教諭 長橋 政之

1 主題名 よいことは進んで A－（1）善悪の判断，自律，自由と責任

### 2 主題について

#### （1）ねらいとする価値について

本主題は、小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編によると、A「主として自分自身に関すること」の「（1）よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと」に関する内容項目である。

よいと思ったことを進んで行うことは簡単なことではない。それは、自分の置かれた立場や他者との関係性が影響していることが多いからである。どんな時でも、自分で善悪を正しく判断し、それを信じて、小さなことでも自信を持って、進んでよいことを行うことができる児童を育てたいと考え、本主題を設定した。

#### （2）児童について

##### ①意識調査の結果より

本学級は、男子5名、女子3名、計8名の学級である。本学級の児童は、よく考えず行動してしまい、トラブルが起きることがある。トラブルの内容は様々であるが、話を聞くと、何が悪かったかなど判断することができる場合が多い。善悪の判断はできているが行動が伴わない。

本時の授業を行うにあたって、関連する意識調査の結果は、以下の通りである。 (人)

	身に付いている	どちらかといえば身に付いている	あまり身に付いていない	今後身に付けたい
よく考えて行動し、あやまちはすなおに認める。	6	1	1	0
正しいと思うことは勇気を持って行う。	6	2	0	0
うそを付いたりごまかしたりしないで、明るく元気に生活する。	3	4	0	1

「正しいと思うことは勇気を持って行う」の項目では、「身に付いている」と回答している児童は6人と比較的意識が高いことがわかる。一方で、「うそを付いたりごまかしたりしないで、明るく元気に生活する」の項目では、「身に付いている」と回答している児童が3人となり、意識が低くなっていることがわかる。本学級の児童は積極的に行うべきよいことを考え行動にうつすことはできるが、時折うそをついたりごまかしたりしてしまう様子が見られる。

それは、児童の発達段階を考えてみると、善悪の判断はできているが、自分に何らかの不利益がある場合は、それを行動にうつすことが難しくなっていると思われる。そこで、本主題のねらいとする価値である、「善悪の判断をし、よいと思うことを進んで」につなげていく必要があると捉える。

## ②自分の考えや意見を交流する様子より

本学級では朝の時間や学活の時間などを活用し、話し合い活動を実践している。自分の意見を伝えることができるようになってきているが、友達の話に基づき自分の考えを発表することが課題である。

役割演技の活動は、国語の時間などで実践している。登場人物の気持ちを考えたり、せりふの言い方や動きを考えたりすることで、内容の理解に繋がっている。また、演じた感想を聞くことで、その場面の気持ちを想像することができている。

## (3) 資料について

① 資料名「おれたミラー」(出典：『みんなで考える道徳2年』日本標準)

② 価値 A—(1) 善悪の判断, 自律, 自由と責任

③ 資料について

本資料は3人の子供が登場する。駐車場でサッカーをしていた3人はボールを車に当ててしまう。1人は謝りに行こうと声をかけるが、2人は、謝らずに帰ろうと言う。3人の考えに触れ、3人の立場を想像することで、日頃の自分の行動を想起させることができる資料である。この資料は3人が話し合っているところで終わっている。話の続きを考えさせたり、おじさんの気持ちについて考えたりすることで、善悪とは何か、何が正しい判断であるのかを考えることができる資料である。

④ 資料分析 (別紙)

## (4) 指導にあたって

本時の内容を自分のこととして捉えられるように、児童が失敗した時のことについて、事前に書かせておく。

そして、役割演技を用いて、資料の続きを考えさせることで、登場人物の心の苦悩を主体的に考えさせる。その後の話し合いでは、発達段階を考えて、自分の考えが友達の考えと同じであるか違うのかを判断し、自分の考えを明確にしてから発表できるようにする。

また、心情円盤を使うことで、自分の考え方の変化が視覚的にわかるようにし、相手によって自分の行動が変わってしまう内面の弱さに気付かせたい。

本学級の児童は善悪の判断ができていても、行動が伴わないことがあるため、自分がやったり、されたりした経験などを通して、相手の気持ちや立場を考え、よいと思ったことを、進んで行う心情を育てていきたい。

## (5) 宮城県学力向上に向けた5つの提言との関連

本主題では、「学力向上に向けた5つの提言」を踏まえて、次のような学習活動を設定する。提言1と2を踏まえ、児童に考えを積極的に発言させ、考えを取り上げて、ほめたり、認めたりする。また、提言4を踏まえて、まとめの時間にワークシートに本時の感想を書く時間を設定する。

### 3 校内研究との関わり

#### (1) 研究主題

「思いやりとたくましさを持つ児童の育成」  
～自他との対話の中で考えを深める授業実践を通して～

#### (2) 研究の視点との関わり

本授業は研究主題の「たくましさ」をうけ、児童が物事の善悪について正しい判断をし、それを信じて行動に移そうとする心情を育てることをねらったものである。

#### 【視点1】 道徳的諸価値の理解を基に、自己を見つめ、考えを深める授業展開の工夫

- ①事前読みで大まかな流れを把握し、自分の経験を振り返ることができるようにする。
- ②授業のまとめで書く活動を取り入れ、児童が自分の考えを振り返ることができるようにする。
- ③謝ったり謝られたりした経験について話し合い、よい行いをした時の気持ちよさに気付かせる。

#### 【視点2】 意識調査、自己評価の活用の工夫

- ①ワークシートに振り返りの項目を設定し、自己の振り返りをする。毎時のワークシートは、「このころのあしあと」ファイルにファイリングし、児童自身も自己の成長や変容を自覚できるようにする。

### 4 本時の指導

#### (1) ねらい

よいと思うことは進んで行おうとする心情を育てる。

#### (2) 準備物

- ①教師：ワークシート 資料 せりふのカード 挿絵
- ②児童：心情円盤 筆記用具

#### (3) 指導過程

段階	学習活動 ・ 予想される児童の反応	○指導上の留意点 ◇評価 【■5つの提言】 (視点1ー○ 校内研究の視点)
事前	【朝の活動】 1 資料を読む。 2 失敗した時のことについてワークシートに書く。	○事前に資料を読むことで、失敗した経験を想起させやすいようにする。 ○自分が失敗した時のことについて想起させる。いくつか、例をあげ、児童が想起しやすいようにする。 ○導入に使用するため、事前にワークシートに記入させ、内容を確認しておく。
導入 3 分	1 失敗した経験やその時の気持ちを考える。 ・ ボールをぶつけてしまった。 →怒られる。 ・ 友達の家で鏡をわってしまった。 →どうしよう。	○事前に記入したワークシートを使用し、相手に迷惑をかけてしまった内容を教師が紹介する。 ○紹介した事例について、その時の気持ちを発表させる。(意図的指名)

		<p>○児童の発表を紹介することで、失敗は誰にでもあることや友達の失敗にも共感する気持ちを持たせる。</p>
<p>展開 3 2 分</p>	<p>2 資料の内容を確認する。  (1) 3人の気持ちを考える。  ・わるいことをした。  ・やっちゃった。  ・怒られる。  (2) 挿絵とせりふを基に場面を理解する。</p> <p>3 話の続きを考える。(役割演技)</p> <p>{  ・さとる君・・・しゅうじ君が言っているように、正直に謝った方がいいかも。  ・たくや君・・・そうだね。謝りに行こうか。  ・さとる君・・・でも、やっぱりおこられるの怖いから、帰ろうよ。  ・たくや君・・・そうだよ。帰ろうよ。  ・さとる君・・・しゅうじ君一人で行けばいいんだよ。  ・たくや君・・・そうだね。帰ろう。</p> <p>役割演技について感想を話し合う。</p>	<p>○黒板に資料の流れが確認できるように、3人の挿絵とせりふを並べ、それぞれの立場の違いを分かりやすくする。</p> <p>○【「どうしよう。」3人は顔を見あわせてしまいました。】という場面から、3人の気持ちを確認させる。</p> <p>○3の活動で行う役割演技をしやすくするために、資料には、誰のせりふなのか分かるようにしておく。</p> <p>○役割演技をすることで、資料を自分の事として捉えさせる。また、謝らないと言った気持ちや謝ろうと言った気持ちについても考えさせる。(視点1-③)</p> <p>○児童に役割演技の見通しを持たせるため、</p> <p>①話の続きを児童に考えさせる。  ②最初の役割演技には教師が入る。  ③考えが思いついた児童に主体的に取り組ませる。</p> <p>○謝る、謝らないの両方の意見を認めていく。  ○役割演技をしない児童もいるので、自分なら何と言うかを考えながら見るようにさせる。</p> <p><b>補助発問</b></p> <p>「なぜ、謝ることが嫌なのだろう。」  →おじさんがこわそうだから。  「なぜ、謝ることにしたのだろう。」  →わるいことをしたから。</p> <p>○役割演技が、謝る、謝らないのどちらの形で終わっても、相手の気持ちに気付かせるような話合いができるようにする。</p> <p style="text-align: right;">【提言 <b>1</b>・<b>2</b>】</p>

	<p>4 悪いとわかっていながら謝れない理由を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>もし、おじさんがものすごく怖い人だったら謝りにいきますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・謝りに行く。黙っていたらもっと怒られるから。</li> <li>・怒られるから謝りにいかない。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>もし、おじさんがものすごくやさしかったら謝りにいきますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・謝りに行く。許してくれそう。</li> <li>・謝りに行かない。謝りに行かなくても、怒られないから。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>悪いと分かっているのに、相手の態度によって気持ちが変わってもいいのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・よくない。悪いことしたから。</li> <li>・いい。怒られたら嫌だから。</li> <li>・怖い人は謝っても怒られるから。</li> <li>・もっと怒られるから謝りにいく。</li> </ul> </div> <p>5 自分の経験について話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>謝って良かった経験や謝れなかった時の気持ちを発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・謝られると、少し許せる。</li> <li>・謝られないと、イライラする。</li> <li>・謝ると、ちょっとすっきり。</li> <li>・謝らないと、心の中に残る。</li> </ul> </div>	<p>○心情円盤の使い方を指示する。 (青→謝る 赤→謝らない)</p> <p>○それぞれの発問に対して心情円盤を見せ合い、自分の気持ちを具体的に発表させ、相手によって自分の行動が変わってしまう内面の弱さに気付かせたい。</p> <p>○話し合いでは自分たちの動向だけに目が向かがちだが、おじさんの気持ちを考えさせることで、今までとは違った視点を与える。 【提言1・2】</p> <p><b>補助発問</b></p> <p>「謝らなかつたらどんな気持ちになりますか。」</p> <p>「謝られたらどんな気持ちになりますか。」</p> <p>○悪いとわかっているけど、謝ることができないという内面の弱さに気付かせる。</p> <p>◇自分の考えをみんなの前で発表することができたか。(発言・表情)</p> <p>○ねらいから逸れた話し合いになった場合は教師の謝れなくて後悔した体験談を話す。</p> <p>○友達の経験を聞いて、自分はどうかを聞く。</p> <p>○謝って良かった経験や謝られて良かった経験を考えることで、謝った時の清々しさ、謝られた時の嬉しさや謝罪を受け入れる時の気持ちに気付かせたい。【提言1・2】 (視点1-③)</p>
<p>まとめ 10分</p>	<p>6 本時の学習で考えたことや心に残ったことを発表する</p> <p>7 ワークシートに感想をまとめる。</p>	<p>○感想が、一言にならないように、本時の学習でどんなことを考えたかを発表させ、具体的な内容になるように質問していく。その後、ワークシートの感想に取り組みせる。 【提言4】</p> <p>◇よいと思ったことを進んで行おうとする気持ちが持てたか。(ワークシート 発表)</p>

(4) 評価の計画

よいと思うことは進んで行おうとする気持ちを持つことができたか。

(ワークシート・発表・自己評価)

(5) 板書計画

